

平成28年度前期 授業改善計画書

学 部 名	看護学部
学 部 長 名	吉田 俊子
1. 学生の授業アンケート結果から、学部全体で改善すべき重点課題(3つ挙げる)	
①	授業アンケートからみて教員に改善を求めているが（資料のわかりやすさ、内容、話す速度等）、授業改善計画に反映されていないものがある。教員の自覚も必要ではあるが、次年度にむけてもカリキュラムマップに沿った関連科目間相互のチェックが必要ではないか。
②	演習などの技術練習で、イメージが困難、教員間の指導に相違があったという学生からの意見がみられた。手技など確実に修得していくには、事前、事後、自己学習の提示の仕方の工夫が必要ではないか。
③	授業評価の学生の参加・回収率の低さは、従来は高い回収率があったことから至急改善を要する。対応は学生に声掛けだけでは難しいと考える。看護の学生はまだPCを講義時もっていない。またリ sponsカードで毎回やりとりしていく科目も多いことや、従来は授業評価の回答時間を設けていた科目も多く、今回の結果に影響していると考ええる。
2. 上記のそれぞれの課題を解決するために必要な取組	
①	関連する講義科目間での講義内容の一貫性、資料の適切さなどの確認や連携
②	演習課題等について、事前学習課題の設定やデモンストレーション、自己学習の充実
③	学生の意識を高める取組や、フィードバックの工夫も必要ではないか。
3. 上記のそれぞれの取組を具体的にどのように進めていくか	
①	学部から提出された授業改善計画書について教授会（教員会議）での共有をはかることにより、現状と課題把握を学部全体で行っていく。次年度のカリキュラムマップと併せて、連動する科目教員間での講義内容や資料の相互確認を実施する（教務WGにて推進）。
②	上記、教授会確認により資料を共有し、専門科目担当者会議にて、各領域での技術演習での状況把握、教育方法、内容、学びの振り返りとの確認と連携（教務WG、および実習WG）をすすめていく。
③	学生の意識を高めていくには、授業評価のコメントには、リ sponsカードで取り上げたような内容についても盛り込むようにして、学生の授業評価が講義の改善につながるように学生とのコミュニケーションをはかっていく。次年度施行にむけ、回答時間を設けたりする工夫も必要かもしれない。
4. 参考となる良い授業改善事例について、学部全体でどのように共有するか	
教員会議は、教員間のコミュニケーションの場であり、工夫を行った例を随時紹介していくとともに、具体的な事例や取組については、学群、研究科FDにおいて共有をはかっていく。	